

樹木の病害虫に関する調査研究－カシノナガキクイムシ－

予算区分：国庫1/2	研究期間：令和元～5年度	担当：森林科学係 伊藤 英敏
------------	--------------	----------------

簡易型トラップによる防除試験（1）

I はじめに

ナラ枯れは、1990年頃から日本海側を中心に被害が報告され、2010年までに30都府県に被害が拡大した。本県では、2010年みなかみ町湯桧曾で被害が確認された。被害発生場所は谷川岳周辺の国有林と民有林であり、尾瀬に近く、被害を最も受けやすいミズナラが多く分布している地域である。2014年には本県でナラ枯れ被害の発生はなかったものの、2015年に再び被害が発生し、以後拡大傾向にある。被害地は地形が急峻であったり林道等からも遠いなど、防除対策が行いづらいことから、こうした現場で取り組みやすく、できるだけ費用も少ない防除手法を検証した。

今年度は、簡易型トラップを利用したカシノナガキクイムシ（以下、カシナガ）の捕殺試験を行った。試験は、5万分の1の地形図で被害地が含まれる図幅（四方）の他に、ナラ枯れ被害は発生しておらず、カシナガの数も少ないと考えられる4図幅（草津、沼田、榛名山、御代田）でも行った（図-1）。

II 方 法

2019年7月第1週に、5図幅からそれぞれ広葉樹林分1つを試験地として選び（表-1）、クリアファイルを用いた簡易型トラップを9個ずつ設置した。簡易型トラップの設置木は林縁から近い木を3本選び、1本につき3器を設置し（図-2）、捕虫部には水と少量の洗剤を注入した。同じ林分には、既製品のカシナガトラップ（以下、KMCトラップ）を1器地上高2.0mに吊り下げ、さらに誘引のため、カシナガコール（サンケイ化学(株)）を用い、捕虫部にはエタノールを使用した。

9月第4週まで、隔週でトラップ内のナガキクイムシ類の回収を計6回行った。捕殺したナガキクイムシ類をカシナガとその他（ルイスナガキクイムシ、ヨシブエナガキクイムシ等）に仕分け、カシナガについては雌雄の区分も行った。

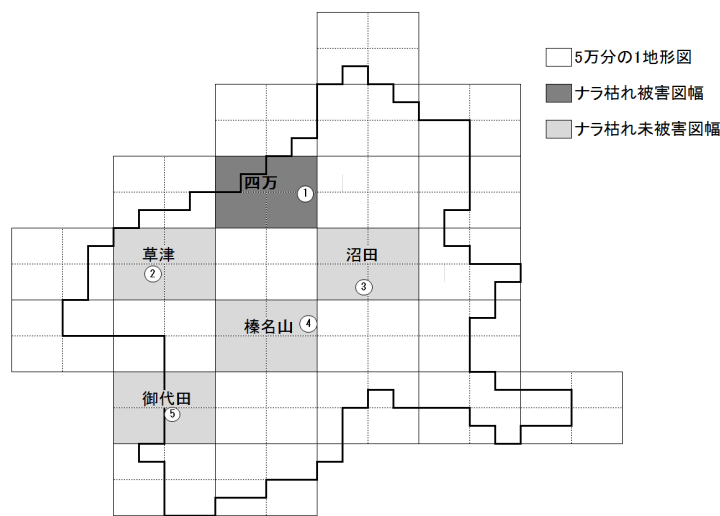


図-1 トラップ試験地位置図

表-1 トラップ試験林分の概要

試験地	市町村	図幅名 (1/50000)	林分	標高 (m)
①	利根郡みなかみ町	四万	広葉樹	550
②	吾妻郡長野原町	草津	広葉樹	850
③	前橋市	沼田	広葉樹	1000
④	北群馬郡榛東村	榛名山	広葉樹	220
⑤	甘楽郡下仁田町	御代田	広葉樹	1050

※試験期間

トラップ設置 2019年7月3、4日

トラップ確認 2019年7月17日

～9月27日

※参考文献：あたらしい林業技術No.635

(静岡県経済産業部)



図-2 簡易型トラップ設置状況

III 結果及び考察

トラップで捕殺した結果を表-2に示す。草津図幅と御代田図幅では、カシナガが何れのトラップで1頭も捕殺されなかったため、除外した。カシナガは残り3図幅の試験地で合わせて950頭捕殺された。しかし、被害が発生していない沼田図幅と榛名山図幅では、KMCトラップのみでカシナガが捕殺され、簡易型トラップでは捕殺されなかった。四万図幅では、簡易型トラップで9器合わせて僅か11頭のカシナガしか捕殺されなかった。一方KMCトラップでは、カシナガコールドで誘引して926頭捕殺されており、試験林分中の簡易型トラップ設置方法及び設置対象木については、今後はさらに検討する必要があると考えられた。

表-2 トラップによる捕殺試験結果

回収日	四 万						沼 田						榛 名 山					
	KMC			簡易型			KMC			簡易型			KMC			簡易型		
	カシナガ 雄	カシナガ 雌	その他	カシナガ 雄	カシナガ 雌	その他	カシナガ 雄	カシナガ 雌	その他	カシナガ 雄	カシナガ 雌	その他	カシナガ 雄	カシナガ 雌	その他	カシナガ 雄	カシナガ 雌	その他
7/17-18	112	81	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8/2	106	109	41	1	2	1	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
8/16	179	289	207	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0
8/29	8	12	18	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9/12-13	6	8	13	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9/26-27	7	9	23	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0
計	418	508	304	6	5	11	4	2	0	0	0	0	3	4	0	0	0	0